



号外

続

継体天皇

ありませんが、血筋としても連続性があることは確かとされる第26代継体天皇から数えても、既に100代、1500年以上の歴史があるためです

の天皇は妻や宮の名前、没年齢など以外の事跡の記録がなく、一般的には実在していなかったとするのが通説となっています。

また、応神天皇は、誉田別命（ほんだわけのみこと）とも呼ばれ、中世以降は清和源氏や桓武平氏などの武家から軍神八幡神としても信奉されました。この応神天皇が新王朝の初代とする説が強くあり、

現在の皇室への繋がりが、現実視されているのは第26代継体天皇（450-531年）から

日本人は古くから「この国を治めている天皇はこの国を創った神々の末裔である。天皇の統治の正当性は神の正当な末裔であることにより担保され、我々の先祖もそうした天皇家から分かれた一族で、代々奉仕してきた、あるいは古くから随従してきた一族である、我々の先祖はこの国を統治する天皇家の一員なのだ」そんな意識が垣間見えます。

現在では「日本国民の象徴」とされている天皇ですが、元々、天皇とは日本の王様でした。さらに世界との比較でいうと、天皇家は現在では世界最古の王家であり、王朝としての歴史も世界最長で、さらに古代天皇のお墓は、世界最大級です。

論点があり、今でも議論が続いています。例えば、果たして初代天皇とされる神武天皇は実在したのでしょうか。古事記・日本書紀（記紀）によれば神武天皇は日向国から出発。宇佐などを経て吉備に、大阪、和歌山熊野とまわって上陸。紀元前500年元且に今の橿原市の橿原宮で即位されましたが、紀元前589年、127歳で亡くなったなどは現実的ではないため、「記紀通りの神武天皇」という意味ではその実在は否定されてしまいます。

現天皇家との血のつながりは不明ではありながら、雄略天皇が実在する最古の天皇とする説も有力です。

継体天皇は実在が確かであり、現在の皇室までつながる天皇家の系統の始まりと考えられています。

第26代継体天皇と第21代雄略天皇の間に系図上のつながりはあるのでしょうか。この点、古事記や日本書紀その他

の記録類以外に血縁関係の有無を証明するものはありません。したがって、継体天皇の当時の大王家との血縁の遠さや、大和に入るまでの期間の異常な長さ（即位から20年経って大和に入った）から、別系統の豪族が大和に入って王権を篡奪した、といった学説も強く存在しています。

説明するのはなかなか難しい問題ですが、理由は一つではないようです。世界中の王家が減ってきたのは、ひとつには陸続きなどの関係で外国勢力が侵入しやすく、外国勢力によって滅ぼされたことが背景にあります。

天皇家は初代の神武天皇が紀元前の500年に即位してから令和の今上陛下で126代目。古事記・日本書紀・記紀などによれば2600年以上の歴史があるとされています。紀元前600年という年代自体は学問的には肯定できるものでは

初代神武天皇以降、何人かの

第26代継体天皇と第21代雄略天皇の間に系図上のつながりはあるのでしょうか。この点、古事記や日本書紀その他

また、少なくとも継体天皇以降の1500年はほぼ確実に今の天皇家が続いてきたとい

日本は古代以来中国から様々な影響を受けてきましたが、その中国ではよく王朝の交代が起こっています。「国を治める王が徳を失って暴君と化したのなら、その王を易（か）えて新しい王家が国を治める」という王朝交代の理論は古く

から成立しており、これを易姓革命といえます。王家には姓があり、それを易えるため、こう呼ばれます。

一方の日本はというと、こうした発想に依拠した王朝交替はありませんでした。源頼朝は天皇家に代わって日本を支配しようとしたわけではなく、その前の藤原氏も平清盛も天皇に代わって王になろうとは考えなかったのです。

